医事雜話 二

Kitasato Memorial Medical Library
F 2
イ-55

490.4
Iz-3
2
慶應義塾大學醫學部圖書
No. 255
慶應義塾大学医学情報センター 昭和47年6月27日
富士川文庫
627

慶應義塾大學醫學部圖書

醫事雜話巻二

浪速　岩永藿齋之房識

此邦の醫者毎年冬至九日ニ當ルハ神農祭と稱し赤豆餅赤豆飯又ハ酒肴盛饌の具を調へ親戚交友を集め賀宴を爲すを當例とする事ハ是ハ歳時雜記ニ至日以赤小豆煮粥合門食之可免疫といひ又風土記ニ天正日南黄鍾踐長是日始芽動為饘粥以養幼倍尚以赤豆為糜所以象色也と云ふニ据れると見ゆれ共是日ニ限りて神農ニ

行つる所謂明し、又冬至ハ庶人の賀寡すべき日にあらん
馬摠ヵ通暦ニ、地皇氏以十一月為冬至とあつて、
漢雜事ニ冬至ニ陽生君子道長故賀といひ類
書纂要ニ冬至陽氣起君道長故賀といひ、
宋書魏晋冬至日受萬國及百僚稱賀因小
會其儀亞于歳朝ニと有此邦ニても齊明天皇
五年十一月一日朝有冬至之會日本紀類聚国史七十
四巻聖武天皇神亀二年十一月己丑御大安殿受
冬至賀辞此為始より陽成帝元慶三年十一月
丙辰朔冬至迄數十條を載する其中に延暦三年
十一月戊戌朔詔曰朔旦冬至者是歴代之希遇而王
者之休祥也朕不徳得値於今と有、玉燭寶典
ニ冬至陰陽百物之始有履長之慶とふも君道
生長の日にして君上を臣下より祝賀し奉る日
也然るを庶人の家にて祝賀宴楽せるハ無礼僭擬の
甚しき尤愚昧文盲といふべし又是日に神農を祭
るといふハ所謂ならず所謂何のや、淮南子などの
寓言を信し誤りて祭ると見えたり、三皇氏ハ人道

Kitasato Memorial Medical Library

開基の聖人なれハ漢土ふても大醫院ふ祭る事ハあれど
神農一人を祭る例なし又名至ふ医祖を祭る例も
非ス淮南子脩務訓云於是神農乃始教民播種五
穀相土地宜燥湿肥墝高下嘗百草之滋味水泉
之甘苦令民知所避就當此之時一日而遇七十毒
此るハ高氏小史司馬貞補史記程氏遺書ふも見
えく淮南王の寓言なるし王安道溯洄集ふも最初
ふ論を立く大ふ此言まりし帝王世紀云伏羲嘗味百
藥孔叢子云伏羲始嘗艸木一日而遇七十二毒武

林前王劔池金環傳云伏羲神農嘗百草雲窻
私記云古傳黄帝嘗百草非黄帝師藥獸而知
醫神仙通鑑云帝使岐伯嘗味草木與生上醫疾
経方本草素問之書咸出焉是等の書を信なれハ
伏羲神農黄帝三皇氏岐伯もおなしく草を嘗る
故ふ神農ふ限て醫者の祖とし祭るも淮南子の寓
言を誤信ずると見ゆ漢土の医祖を祭るハ決して
冬至の日ふあらス說郛中の潜居録ふ古人以八月朔
為天醫節祭黄帝岐伯 風俗通ふ八月一日是六神日以露水調朱砂蘸小指宜

Kitasato Memorial Medical Library

點癸去百疾又云楚俗以八月八日以朱墨點小兒額為天灸以厭病疫此等皆医に係りあるべし

又大醫院に祭るは春二月冬十一月并に上甲日を用ふ也大明會典云嘉靖十五年建聖濟殿于文華殿後以祀先醫遣太醫院正官行禮二十一年又建景恵殿于太醫院上祀三皇配以句芒祝融風后力牧而附歷代醫師於兩廡凡二十八人

東廡医师十四位分設三壇 僦貸季 天师岐伯 伯高 鬼臾區 俞跗 少俞 少师 桐君 大乙雷公 馬师皇 伊尹 神應王扁鵲 倉公淳于意 張機 西廡医师十四位 華佗 王叔和 皇甫謐 抱朴子葛洪 巣元方 真人孫思邈 藥王韋慈藏 啓玄子王冰 錢乙 朱肱 李杲 劉完素 張元素 朱彦脩

歲遣禮部堂上官一員行禮太医院堂上官二員分獻二殿之祭茲以春冬仲月上甲日彼土先醫を祭るに上祀三皇は人道開基の聖人なれば神農に限らざる事しるべし 此邦にも人皇開基の神人にましまして醫者の祭るべきなれば其國に生れ給ふ其神を祭らせ淮南子形を寫言に據て神農一人を祭るは其道を失ふといふべし

此邦の神人医祖と云ふは日本紀神代上一書第六云

夫大己貴(オホアナムチ)命與少彦名(スクナヒコ)命戮(アハセ)力一心經營(ツクル)天下(アメノシタ)復

Kitasato Memorial Medical Library

為顯見蒼生及畜産則定其療病之方又為攘鳥
獸昆虫之災異則定其禁厭之法是以百姓至今咸
蒙恩頼（古語拾遺にも同し）是也精要記に療病之方則藥
物醪醴也禁厭之法則咒祝方術也と同しく此
二神 日本医道開基の始祖也其民を濟ひ玉ふ
御靈の今世まて顯然としく著きる仰きそ廻し
文德実録云齊衡三年十二月戊戌（戊戌は廿九日也）常陸國
上言鹿嶋大洗礒前有神新降初郡民有煮
海為塩者夜半望海光耀屬天明日有両恠石

見在水次高各尺許體於神造非人間石塩翁私異
之去後一日亦有廿餘小石在向石左右似若侍坐彩色
非常或形沙門唯無耳目時神憑人云我是大奈母
知少比古奈命也昔造此國訖去往東海今為濟
民更亦来歸古ル則二神の出現し民を濟玉ひむとく
造りまふ二石也神名帳に常陸國鹿嶋郡大洗
礒前藥師菩薩明神社那賀郡酒列礒前藥
師神社并名神（文徳実録天安元年冬十月十五日己卯ノ條も同し）とふ是也
其外も二神の石像を造りまひしる處々にあり人

Kitasato Memorial Medical Library

能登國羽咋郡大穴持像石神社能登郡宿奈
彦神像石神社並延喜式に見えたり
萬葉集第三生石村主真人
大汝少彦名の座しけむ志川の石室は幾代経ぬらむ
播州石宝殿も今は二神を祭りて生石子大明神高御座
大明神と号す是ハ神代より伝へ来りし明證にて日
本紀神功皇后十三年酒楽の歌にも區之能伽彌等虚
豫珥伊麻輸伊破多多須周玖那彌伽未能等
豫保枳とよみたり區之能伽彌とハ藥神也〔彦名神とするハ非なり〕

日本後紀に大同三年五月甲申衛門佐安倍真貞侍
医出雲貞雄等撰大同類聚方一百巻奉進す其中に
数多神方と称するもの有神代二神の伝へたまひし
薬方にやあらむ先是に皇極帝四年蘇我入鹿を
誅伐せられし時蘇我の臣蝦夷等誅に臨て天皇の記
国記珍宝を悉く焼棄たり此時療病方禁厭之法
なども皆焼失せしと覚ゆ実に長大息すべき事なり
大己貴命一神七名に分ち京下賀茂本殿前七社是也
中二座一言社西二生一言社東三座三言社 又五條天神〔松原西洞院倍天使社と云〕少彦

名命相殿大己貴命を祭れり毎年節分の夜の勝餅を
禁庭に奉るも木の神事有 俗に小ノ餅といふ四季物語追儺の謬也
夜は木の餅はくこの多めと焼奉り御飼の御まへに奉
る又世間名康富記にも載たり 注略 此木餅は疫疾を
除く薬品にて今人毎歳除夕に祇園にをけら系といひ神
前燈明の火を燈し係るも同し 除夕木を焼る月令廣義に見ゆ 其本は醫
道の始祖二神の御薬方なれは闇神の詩にも水言大彦
名經濟起蒼生除夕世間靜神風餅木馨と作れり
尤も尊崇し敬祀すへきなり 中略 此方の医祖を祀らんは此

二神より外祀る道なき御神なりと知るへし然るに欽明帝
の御代より佛道行はれ尊き神の御名佛に混するも多し
能分別すへき事也和名抄に医を久須之と訓せるは薬師の
義にて光明皇后仏足跡の歌にくすりしと詠り常陸國大
洗磯前酒烈磯前の二神は本薬師明神なると菩薩乃
号を付らるは仏氏の書より俗称に従ひし也大宝積経に
譬如薬師持薬嚢自身病不能療治といふ文ありて
是より薬師は医家の祭るへき佛と心得し薬師菩薩
薬師如来なとと称し又仏氏の徒より薬師を牽強し慈

Kitasato Memorial Medical Library

覺大師経文を修るとて一佛一神来て守護せる人一仏
八薬師如来一神ハ江文明神なとゝ云妄説を信し正月
八日薬師結縁日とて薬師と神農とを祭る者也
其國ニ生れながら医道祖神をしらぬ愚昧文盲ニ至て
可笑可耻の甚しき也又医者薬師を以て姓とするも
佛氏より出る事ニ非ず日本紀推古帝三十一年医恵日福
因等並従智洗来之（恵日徳来五世の孫徳来ハ百濟の人）舒明帝二
年秋八月癸巳朔丁酉以大仁薬師恵日遣於大唐續
日本紀孝謙帝天平二年三月内薬司佐薬出雲國
員外掾正六位上難波薬師奈良等（中略）昔泊瀬朝倉
朝廷詔百濟國訪求才人爰以徳来貢進聖朝徳
来五世孫恵日小治田朝廷御世被遣大唐学得醫
術因號薬師遂以為姓と之ある是等の薬師仏氏乃
薬師と相混し薬師菩薩の俗称となり此邦医祖
二神を鎮坐まします悉く薬師仏を安置ましますハ
桓武帝以来の事也尊神と胡佛と相混ましますなり尤
分別すべき事也
醫者の用る薬匙を刀圭と云事和漢とも詩文章ニ書

Kitasato Memorial Medical Library

く人多し白楽天ヵ挽茶の詩に湯添勺水煎魚眼
末下刀圭攪麹塵と作る蘇東坡ヵ句に促膝問道
要遂蒙分刀圭といひ元の林坤ヵ誠齋雑記に出
篋中刀圭薬滲之悉化為水と書たれど其名義し
れざるに王士禎ヵ池北偶談巻二刀圭字常用之而
未有確義碧里雑存云在京師買得古錯刀三枚形
似今之剃刀其上一圏如圭璧之形中一孔即貫索之
處蓋服食家挙刀取薬僅満其上之圭故謂之圭
言其少耳泉布錯刀皆古銭名といへるは彼土に

ても刀圭の名義しれざりしと見ゆ碧里雑存は明
の海鹽の董穀ヵ著也又外より飲む刀圭といふ有是
は薬匙に係る道書入薬鏡に見ゆ
俗に疹といふ病は和名鈹瘡疹（和名チヽホロシ 一名チヽハクル）是なるべし
今俗はしかといふは愚按に代瘡瘡頭赤し故にはしか
の略なるべし栄花物語うらうらのわかれの巻に云こと
しれいのもがさにはあらでいとあかきもがさのこまかなるい
できて老たるわかき上下わかちを是をやみのゝしりてや
がていたづらになるたぐひもあるべしと云是麻疹な

る色し、皰瘡にハあらで赤き瘡とのミいひて名を
あらざるは、ここらより始て疫行せしにや、あらん、又ここに
月の巻にことしハあかもがさといふものいできて上中下や
ミなこれにわづらひやまぬ人なければ、ひやむなりけり
云云 麻疹なるべし、明らか也、今の世にもこれあり 按万寿二年七月件アリ
布引巻云四五月ばかりよりあかもがさといふ事いできて世
の人やむと聞ゆる六七月許になりてハいとしげくやミまさ
りてのこりなく聞ゆ 万寿二年より承暦元年迄五十三年 五十三年にいできたりき老たる
わかきともなく親子もわかずひとつびにやられたるぞあき

またに人かく有りしが、六七十の人ハ人のまたにもかかりし
いといミしく形人有りしが、人のとみにうせ給ひしぞ
ハいとかくもあからさまなり、三百年許になりましにけん
云云 栄花三百年許といへるハ、桓武帝延暦九年疱瘡
流行の事なるべし 是ハ赤もがさにハあらで 久保の寿はび
倍に按摩といひ、服を撫るを古語にならいたりと云
栄花物語布引巻云 おとこ女何某いとしき和やや
何ゆえかこの女にとらせよかし わかきもさことそハ
まれと倍されたるもものと云云

Kitasato Memorial Medical Library

寸白といふ病医家にハ病原を考ふるときハ弁知すれども倍
にハ陰嚢のちゞみいひて男子のミ病むると思へど女も
病也栄花物語鳥部野の巻に中宮わらは病など
れハ什麼の事をさのミしにいとしうおぼさせ給ひとの今ハくも
しに見せさせ給ふべき形人おそろしき事なりと思ひ
く算えさせ給ふべきくすし（醫師）に見せさせ給ハゞ
きてかひあるべきにあらずとおぼしめしきさまをさせて見
せさせ給ふまじくはあらさりしをくるしさにかくれ算を
れずすをくにおはしましけるとてうかゞひまゐり

ぢぢを清めりまつる云々

車前草疝を治する能有りといふ實ハ車前子也小便を利
し虫を殺霜となして鰻鱺に掛て食し痔を治する事
世の知所也然るに此徳の両岐あるに油を塗りて燭と
なして傳尸勞を患ふる者を照らせバ影二ツ映ることあり
影のうつる成方を針にて突けハ病癒ると云先年大
坂一豪家に此症有りしに伊丹より二本来る一本ハ岐の
わかれし虫食て短し両方全きと買病人を照し短き
を兎毛町の町代へ遣し早速此方をとりひろへ程なく二

Kitasato Memorial Medical Library

人世ニ死ぬるハ妄説也燭二ッニ照らすときハ影二ッうつる也治しがたき病故妄を信ずる事多し

剪燈随筆
南谿子著

伝尸労ハ伝染し易きものなれ共癩の如く子孫ニ伝ふるに非ず癩ハ子孫ニ伝へて一代も二代も其証ありといへども又発せざる事有他人ハ伝へず夫婦と雖伝染せざるなし伝尸ハ他人を伝染る或近隣の者も親しく看病などせるを移りて病或ハ死して其家ニ又伝ふなし時疫の一家不残死一邑隣里甚しくてハ一国ニ行ハるゝの類也熱臭の気を請れハ口鼻ちかくも不入して伝ふるし倍ニ焼ヶ止しといふ其残りし者後来子を生て皆無恙ものなり近年労症て一人死せると其兄弟妻子の内より伝尸を恐れしもや其手当をなしいろいろの咒事或ハ心中の石塔をたてて薬ニ加るなどさまざまのる有人各其治しがたきに苦んで針灸薬治法ハ疎略にしニ咒ニ走り又ハ仏神ニ祈数丈ニ祭して巫覡の徒なるべしの邪説を成し死ニ至れハ命ニ帰せん心を用て早く療治すれハ不治病ニならぬ此症灸の患せると不患ニ有り血枯の証ニ非ずハ灸よく患せざる疲

Kitasato Memorial Medical Library

藤流の点ちと丈をゆかしして数壮急ちし別して婦人
室女に多し始め経行不順也此挃に大坂の医鰒汁
の塩引を多く食せしめ薬を与へずして療治せしに功
多し小泉隆昌或病家に此医を勧しに其人は不知
庸医なりとし世に鮭医者と呼ふは其通りにて尋ねし
所は果と聞及ぶりとて毎其医を招きしに果して鮭
を食せらりし鰒十六尾喫て其病治して子を生せるとぞ
あり其後近年数人見及ぼしに薬方はませるもなきよし
也只鰒の功也以て凡患ふべき者也乾鮭婦人の血証

功有れとも陳久の者功うすし塩引は潤ふ故益也生鰒
尤宜しく猶し薬方は柴胡桂枝湯或黄芪建中
の類見合用ひなば十に二三は治すべし甲斐人の徳本
の四味の黒霜も見合用て与ふべし一本堂の四物湯
に勝る事遠し○亨の書産後足痛しるに田螺
黒霜味噌汁にて用て即功を得るに何分労まて一両
人死するとて傳尸として呪術祈禱に委ねる事なく治
を行ふに危きる也　同上
近世越前の一医氏帯の種芸を得て華産より甚

Kitasato Memorial Medical Library

若くして切有専吐法をとりたる事久変疾ニ喘を患へし癒かたし故に此法を用まうし侍るに瓜蔕二六分より八分程用ゆ吐しかたき性の人ハ三年餘の莱菔塩藏汁を茶碗に一碗ほと用也予吐浮過る性故瓜蔕八分用ひしに忽呃気甚変せ吐し咽渇腹痛して便気有厠に上る共二三度ハ後重して通しかたく煩渇呃噦苦痛堪かたく外倒気絶したりし暫くして沫を吐たる丈一升餘下利水浮二三升にて渇止洗ふか如く快し実に病ハ治したると思ひしがまた數日にして疾喘發りしかしも不減却て強くなりたる如し今一度服せんと思ひ共留る人も多く事も懲たり其後大坂の大山氏云吐方を好て四十人計試しに一人も不治甚丹壮健の者一人少し減したるか残りハ却て重く成りたり労して功なし必無用とそしきい　同上

勢州津の医生大森立理といふ人の家より粒甲冊世に眠藥といふ名方出たり代薬昔文録年中朝鮮征伐の時肥前の國の人細野右進と云人募に應して朝鮮に趣く然るに忠州の城敗れし朝鮮王李昖義州に走る太子臨

海君諱次子順和君諱捕へらるゝ時に王妃華陽君途に
さまよふ右進是を憐み扶助送りぬ国妃其喜ひの餘り
随身せし官女に命して嚢中一壷の薬を賜ひて曰此薬は
明の元良哈の道士天徳真人の伝来再生長寿の霊
薬朝鮮暦代の神方なれとも今爾に授くと也薬并に
方書一巻を併て与ふ右進受之帰朝の後試るに奇
功神の如し右進後大坂に出し医業を成す子道泊も
父の業を続伊勢へ行寿九十六に及ひし由彼か理の
祖父此伝を得しと猶委く能書有其功中風積気

驚風或瘧瘡等に毎〻多しと雖就中不寐病人なし
て睡らしむ世に眠る薬といふ是也 同上下畧
北山寿菴は国朝の名医也黄蘗独立禅師に従ひて医理
を極め沈痾を治し人を起しむる事多し自書を
著され依て人の著述の医書に批判を成しむる事最
篇の内に医方口訣の頭書抜群也 下畧同上
右縄愆に傷寒には説なし謙遜の名也いかにも六経相伝へ
証長沙氏備へて老婆尊むに餘まりし後漢の李文章
さるあひた或伝写の誤り何角にて殊更解しかたき故

後世注家紛々と説者弥多して弥闇し近年国字
の書も多く出れ共委しくハ役かゝたきゆへ愚見の人の笑
へきことをかへりみず十月に思ひ出せしる有夏日中寒への証
く危急ちる者也試之に海辺近き平地になく山
陰の地ハ流也のごとく風の吹ぬく處なく昼の大暑ハ
甚地くして夜深更に及てハどことなく陰合かぶれく
しめやかとするに此陰気が陰経へ中りたるもの也皮膚物
故に見かた多し壮熱煩渇もなれた暍病と違ひて熱
陽を好て多くハ自利もあり急に大剤の四逆湯或自利

氷浮有故附子理中人参多用ゆべし或小便不利
にハ五苓散合方よろし暑に中りたるもまじりたる吐にハ
丁香山椒加ゆる也蛇足の如くなれ共師伝也 下略同上
瘧ハ色々治法あれ共兎角早く截ハ悪し古方蜀漆と
云も今常山を用ゆる也是を用れハ一旦ハ截れ共再発の後
六ヶ敷成ると多く見及びたり寒熱二種有れ共先ハ
熱ハ多き也初ハ柴胡或白虎なと用ゆ若寒多きに振うた
らハ柴胡姜桂湯杯見合せ用ゆべし 中略 挙七ツ八ツ斗
好ひ多くハ見合せ灸もよし四花章門なと救壮もよし

Kitasato Memorial Medical Library

平伏に膽兪十椎の下脊骨を挾随分狭く点して丈を小さくして十五壮すへし一度て截せずバ幾度もすべし腫の一証尤病因多し軽卒に論ず可らず虚症に金匱腎気丸真武湯の類要方薛己張介賓など専ら温補に偏也赤水玄珠に壮原湯を出す本邦の大医多く用らるに功有るハ稀也又脾胃敦阜の証に林一鳥の貴薬間効有り是ハ肉食膏梁を断て赤豆を飡せしめ治する也薬よりも麦赤豆莱菔汁なとにて胃中を疎滌する功と見へ多く婦

人小児なと麦赤豆を喰ふる不能者にハ功なし麻疹ハ痘の如く常に流行する者にあらず流行ハ一時に多くして残るものハ少くはやり止みてハ患るもの少く間の有者也数年を経てはやり時ハ免れ残りたるものとも疫生れたる者と寄る也幾度ものがれて一生不病者稀也正徳三癸巳年行はれし由其後享保十五庚戌秋大流行十八年目也其後宝暦三癸酉夏流行廿四年目也其後安永五年丙申春流行す痘ハ藏より出る気血の虚有りとて兼温補の

の症有りて麻疹ハ腑より出て壮熱のものなし故に
解熱の症のこまて温補ハ稀也と云何ハ石膏
剤能應也むかしハ此道理不案内にして多く
補剤を用ひ死証ありし由人恐れしこと張氏
医通の内麻疹精要治法垂し保赤全書赤
水玄珠二書の麻疹の條文章おしもうなるは
後に出しるが偽なるべし
湿熱楊梅瘡尤治しかたき病也時分を見合せて五
宝丹を用ひ土茯苓を遠き無く用るよし世に

巻之二

五宝丹を忌てハ軽粉の入るを用て誤りしを見て
こりしる也回春の通りに調合しても忌る者に非也
且十二日を一廻りとして用ゆる故薬の分量絶て只
土茯苓を多く服する也土茯苓ハ何程多く服して
ても害なき者也鈍物也五宝丹ハ應ずると見へなば
五廻り以上多く用ゆるはし其間一廻りにてかしく
るを止て用ゆもよし應ざる症食よし進むに土
茯苓鈍き物なれ共湿ありて熱多き症には燥る
あり是を識ずして不起の大病に至る徒のあり

Kitasato Memorial Medical Library

只ハ毛髪落て禿るなと有る也軽粉を服したる者
ハ且快き様にても後大に悩みて死に至りしもの数人見
及ひり軽粉ハ大毒と心得て用ゆるへからす予か
友に一人軽粉の入たる喉薬をもちひて子数人有る皆
数百人の内にけ人のこちり恐るへき事也
婦人ハ湿毒落き物也是経行と云る事有りて毎月順に巡り
ハ瘀血散去也又多産の婦別に血毒なすし其代り
経行不順なれハ血虚の症又ハ帯下なと痼疾となる
又労症なんと是より醸して難治に及ひ也れ先湿

湿毒なくなりきものハ妓女の類極て黴毒を患ハ呑は
ぬ酒を呑或ハ寒き夜に阿ゆるくひ房に入なと不養生
をなす上に来て辛なる賓客の湿毒を請て病む也
尤妓館青樓の主人薄情の者故我子の病を看る如く
ハせす大なる事をけめす幸ゐて麁食なる故病あるにハよ
くて数りよ起也但る温泉湿毒に佳名湯之時ヲ
を見合せて浴てよし浴法ハ日々に数度入て日数
短くく悔るハ甚悪し一日に二度或ハ三度位かよし 三
度と入るハ悪しく

Kitasato Memorial Medical Library

近年京師に藏志出て九藏の説有伏見の伊良子の見られるは古説の通のごし其論紛々たり予謂仲景といへども人の腹内を見ずして治法を立る事有まじき有まじ尤腹内に某の藏に某〆の薬が應じ某の薬反を書附ハ有るまじ只青黄赤白の色又ハ某より某に傳ると知ぬ手にハ何の益かある適者に白及を服せし者刑にあひたる肺間の竅穴に白及が填補して有りし如事有べき乎一兩見たるものにあらで白及ハ瘀血を止るのよりにハ甚即効

有予折〻瘀血を吐く白及の自然汁即効有豪傑の説とも解し得ざるものあり東洞翁の

河豚賛

獸名而魚　何其毒神　毒毒於毒

不毒於人

此先生萬病一毒と云を一家言として治を施し諸国に遍く行なる其説を用ゆれど無毒の人ハ百人に一人稀也今河豚を食て死するものハ百人中一人稀也然れハ有毒の人甚多くなし何ぞ其言の自ら

矛楯なるや

南谿子云大坂に在りし時、無病を見る事あり。一豪家孫

生の児生て三十日斗にて咳嗽甚しき療治を乞ふ

百發驚直視神闕に灸して驚鎮りたり

百日咳に予師傳本叟方十六般と云方

阿膠 馬兜鈴 杏仁 半夏

是に六君子湯合方也。是は稟賦虚弱先天の羸

紀証也

前症の小児驚鎮りて八十日許の比、一日暮前に呼に来り

て往診せしに、別に変りたる事もなく、臍の中少し血出

るより先日の灸瘡衣服にさはりしかと云ふ。只毎

にも赤貝の肉色の如きもの、少許出来り。予曰、灸瘡の

破れたる斗なれば、若し悔じられ共、何とあらん。左れ只

へんだ若臍風の類なら大事也。先外科を見せ、投剤も考

医を招き直に外科を招き、老大医来りて診之

づきも灸瘡の破れたるならん。是なれば大切の事なりとて

辞して老医投剤也。然れども臍のあたり赤肉よりもと大き

く出たり、各驚きて又外科一人を招く、始めの外科の云

予師堺の本郷氏此疾を療治せられし時来有時気に感
しける者あり温剤煎湯にて外より温めし侍りしに膏薬
を貼しと云一人の長崎外科ハ凉剤の膏薬にて熱気
を去らんと云竹家の岳父理屈者にて然らハ先温剤の
方を先へこゝろむへし應せざる時ハ凉薬を試むへしと云
桃花口の方子紅花多く入薬を調合して葱白多く加
へて煎じ手拭にて浸し温め洗ひ膏薬を貼に臍に
大くなる者又後の外科に乗して温薬にて熱を益たる
者大くなりしと膏薬を傅しに伸は内に大くなれは

後に猫多く大腸の圖の如く巻多くもの出て茶碗の
大サ程に成しより數人医を招く皆予が對説して
死する事何れも是人ハ頼ミ中べしと打まかれて不及
各對説せるに一つも取用なし妄説のミせかし弐者と
又申る医ハ皆々拝の証縁に見及ハざる者如何其古へき
拝なしと明白に辞せる也療治を施すと云医者皆庸
工也夜明に飯焼程に成て死すりけれバ臍風の
変症なるべし
備後町の町代に六歳なる男の如く生れ一年許前後に

四五十日腹痛不止大小便不通、腹に一塊有りて脉
甚痛外科に見せしに外科の云腹癰と見候て
恐らくハ肉(ウチ)にて膿潰しなるべしと云て数日の後脉
破れて大便脇より出、并に見ける時ハ脇より膿多
く出る故痛藏しかりしとく薬を乞へ其外症
を治すべき薬なきと辞しける人
風犬咬まるるハ即時に薫汁にて洗ふべし、薬方ハ
馬銭子 一戔五分　甘草 五分
右水一盞半を一盞に煎し即時用、半時に

檳榔 大　大黄 大　番木鼈子 大　沈香 少　甘草 大
右五味一服三四匁位、調合煎服、
右の方を服すれハ大に熱發譫語犬の吠る状を成す
一両日にて熱清く治す、赤豆三年忌也、或熱を発
せず犬の吠を成さずして癒も有り、夫ハ病犬にて不
ときは犬に二人噬まれて同薬を服し一人ハ発狂
犬の形を成し一人ハ何事もなくて治しける、人の性
によりて此方早き程よし、十日餘も過てハ害有り、
虫を去る毒を去る、水銀の如くハなし、百部根なと純物也、

Kitasato Memorial Medical Library

大坂安土寺町白華屋煉薬肌美の縫目に塗りて
着て居るや蕙の香の有ゆゑは虱去也尤水銀の
臭気有て近年虱紐と云もの甚行る是も水
銀の臭有て水銀二三分程紙に包て火に危
て其上に衣服をかけて伽羅を焼る伏籠の如くむし
く薫るがよし
ヘイサラハサラハ鮓荅也と云陶九成輟耕録に蒙古人
石子に水をかけて祷雨と云石子は鮓荅也と有り
と何にもせよ狗寶牛黄の如く諸獣有者と見へ

多り猿のかけしと云俗説に蠹毒箭を射は其
箭を敵に獣毒を消ため草木の葉をもみ込毎
は不瘤に成は其病へとゞふりかゝし価貴き者
は大方大母指の大サ程有りて紫赤色也少し大くて
白灰色なるも有り是は価賤し皆切口ぐちつまり
人ヶ廻りて光沢有り獣の大小によると見へたり臣
生の不指ゆへ和州郡山の厩に飼置る馬の肛門
より出るは大きさ茶碗ほども有りて白灰色光沢
かく和産臭有るよし瘧の亭熱を解す功有り

Kitasato Memorial Medical Library

として諸方へ恵まれしに問大如有りし人
ミイラハ木乃伊として人を製したるものといひし
近世物産家の考にて質汗也と諸獣の血をもて艸木を
煉たるものといふ長崎に遊びし人の説に紅毛人の将来ハ
全身揃ふて有といふ其真偽を試るハ火に薫じ
沈香伽羅の如く香気有るハ真也尸臭有るハ贋也
是識る倩也本邦に識る香気有るハ稀なり皆尸
臭有りし人
人魚骨といふもの小便を通し髑髏の如く薬にして近年
行はれ腫病膈症に用ひ其功有ることを見ず象牙の
如く光沢なく多くは念珠の珠也丸くして中に
穴有人魚ハ鯑鯢の釈名に出声児の如しといふて
本艸に稽神録述異記を引て腰已下婦人の形と
いふもの別也此邦の絵には腰已下魚にて腰已上日
本の女也地獄の絵にも十王皆華人にて罪人腰
以上日本の女也可笑
世に医を以鳴る人ハ至て診を乞其患はなるといへんと
すれハ渉ることちまれ脉を診し其を知得し故此方より

Kitasato Memorial Medical Library

云へしとて脉を診して或悪寒発熱等或其外症
も逢しなと云病人其證十ノ内五ッ合へハ信して薬
を服病癒ゆれハ大に信て人に對して云世の医者示ハ
脉を診して某病候を問のみ也何某医ハ名人之皆向
より病候をさしのみハ㧾ゝ名人哉と一大虚に吹てハ方
大和之ハ大に行るゝ是愚人を惑ハして名を售るの
甚しき也先望聞問切の理を知らば夫仲景ハ方世
の医祖也如是大陰経三部の脉斗を診して方病を
療治せらるゝのみ非也其言脉其こそあれハ法當さよ

某に何へきに今反て某之とあらハ亦に何ハ是脉と
證と不遠なる也傷寒陽脉濇陰脉絃法當腹中
急痛者先與小建中湯不差者與小柴胡湯主
也是脉を診するとハ遠なる也夫故早速方を轉せ
ぬ也又今世に一診して處方數百日を經ても不
轉方一方を用ゆる医有り是自信あるにハ甚しく
己か見識の定りたる自慢より人命をそこのふ也又百日の
中に數方を轉ぬ医も有是も見識定らぬ證し
凡廿年を經ても一方を用て自信あるよりハ罪

Kitasato Memorial Medical Library

浅くやはらく既仲景の小建中を問薬也今人右
仲景に勝らんとする人有世人謹しみ其医人に
誑かさるゝ事なかれ

修験者巫祝の類祈祷加持して病を療する者多し
真言に我加持を成ば即ち湯液針灸の療治必無
用と制禁する愚夫愚婦皆惑し医を信ぜず巫を
信じ彼が言に従ふ死に至し悔せん人もなし或ひは加
持の香水を出して其水にて薬を煎じ服すべしと
云も有是は医の療治を止めぬ事害もなし加持

するものも此代わりは又有之病治せざる時は香水の咎
持は何ほどなれ共医の庸工なる事功なしといふ又病
治しざる時は薬は少しのる事なれ共香水の功之と
之は功何る時は己に帰し功なき時も恨を受ぬ医薬
を止むる憂僧の類は己を人の功にせんと欲る事功
なき時は恨を受る也

醫之五科歴代不同
周四科疾医瘍医食医獣医　周禮
唐七科體療瘡小耳口歯角法按摩呪禁　六典

宋三科、方脈科、針科、瘍科、　選挙志

元十三科、大方脈、雑医科、小方脈科、風科、産科、兼婦人雑病科、眼科、口歯、兼咽喉科、正骨、金鏃科、瘡腫科、鍼灸科、祝由科、　輟耕録

本邦近来種々ノ科ヲ立ル、痘疹科、乳医、産科、癇症科、労瘵科、發炮家、或吸玉屋抔唱エ一家ヲ立ル有リト云

和蘭ニハ切断家ト云テ、瘍科ノ外ニ切断ノミスル医アリト云

猪尾血古来用ユル事稀也、費氏ニ至テ大ニ其効ヲ称ス、余京ニ在ルノ日、其経験ヲ欲スト雖、猪ノ得難キヲ患フ、往年筮仕シテ中津ニ至リ、一頭ヲ瓊浦ニ求テ之ヲ養フ、痘流行ノ日ニ当テ、険悪ノ症ニ逢毎ニ尾尖ヲ刺血點滴ヲ得テ是ヲ用ト雖、殊効ヲ見ス、偶隣児七歳致痘、他ノ症ナシ、第三日ニ至リテ夜来煩熱、狂燥、鼻衄、譫語、喝飲、痘形蚕種ノ如一齊ニ湧出シ、肉色紫暗、第四朝ニ至テ周身紫黒点ヲ發スル事黒痣ノ如、飲食不入、二便不通、脉無倫次、小便帯血、周身腫脹、形状可恐、始清肌透毒湯ヲ用ヒ、隨テ治浴

透毒飲ヲ用已ニ危篤ノ勢及ヘカラスハ父母號呼シテ懇ニ救ヲ請フ其嬰兒ヲ坐視スルニ忍ヒス尋常草根木皮ノ救ヲ可ニ非ス猪尾ヲ刺ス支半ニ過ク血流シテ盞ニ満法ノ如ク是ヲ用時已ニ已ニ過ク午後勢去ク安静心下上冲止テ小便通利漸ク生気アリ又黄昏又半盞ヲ用夜来狂躁譫語亦共ニ止テ大便羊屎ノ如キモノ盆ニ満臭臰ヲ載ス翌斑點散シテ肉色紅活痘形蚕種ノ如モノ半ヲ減シ顆粒サク分カ明次テ清毒活血ノ剤ヲ投シテ貫膿七八分臭痂ヲ結脫シテ効ヲ収ム其數人ヲ驗セント欲スレ共猪尾ニ一頭血亦點滴預メ數頭ヲ養フニ非レハ用ヲ為シ難シ好生ノ君子夫是ヲ慮レ

延来痘ヲ免ル丶方トテ丶

枳殼五匁　牛房子四匁　紅花四匁　陳皮一匁

青大豆二合　黒大豆二合　桃枝　桑根各長一尺三分

右八味水三升入二升ニ煎則煎汁ニ浸ス右ノ豆其子又ハ乳母ナメツヽ食シテヨシ右布袋ニ入テヨシ

右方土屋相模守御家方ヲ松平加賀守御聞及ヒ

Kitasato Memorial Medical Library

御國ニテ三千人ニ施シナサレシ処二千人ハ瘥ヲセズ一千
人ハ甚軽ク怪我無キ由大坂渡辺備中守屋敷エ
申来リテ当地ニテモ顆シク用シ処今ニ一人モ怪我ナ
キト云
業此方古クヨ傳フ方ニテ或書ニハ今大路道三聞届ノ方
ト有又松平若狭守又ハ大久保加賀守又酒井讃岐
守ナト、有リテ薬方ハ同様也何ヨリ傳リシ方哉未
詳予ハ格別効ナキ様ニ思フ畢竟厭勝也
寛政の始予暫く伏見ニ有ける比痢病を病ミし

臥居たるに百度に近き下痢にて後には飲食も絶く数
日に及び傍よりミれハ大小危き躰なりしかど予らくにハ
神精少しも疲れざれバ身の極労せるのミ覚りしが数
日絶食の後ハ自らも手足だにも動する事をえバ訪さ
すこし志と收のミ人にのミ臥居たりしに耳と鼻ハ殊外
まきとく覚へ厨下此物に至りてもかふハ何を煮る
今ハ何を料理すると其香臭委細に少知りし弟子
ハふさくるも句いなきものさもしく聴えくさ形を穿つ
程に笑し難儀せし人に俤しきを遁るて箏を弾

Kitasato Memorial Medical Library

ぜしゆへに古律委細にわきまへし今の調子ハ古
し今の曲ハ甚ひくし盲人法師の律をやわらぐる程に
なりしが予心に思ふに病に非ずして他念なく此居る友い
ふ非ずやと心得いたりしが其後日数を経て痢病愈
飲食常のごとくに成るに至て後ハ鼻の匂ひをかぐる事も
常に異ならず耳も已前の如くになりて申し盲人
法師の箏律を少分ながらに精密なる事なし
是ハ全く数日絶食して経絡空虚し血液も清
稀になり志友に神の甚しく冷利になりしなるべし

耳へも達せしなり是を以て思へバ仙人道士の穀を退
け草根木皮のみを喰しく血液清稀になりて
霊通して奇妙なる事もあるべし也　北窓瑣談
備後福山の何がし或時庭に出けるに小鳥蛇を見付
くらしハ杖にてつゝきけれバ其侭草の中へ入
りしが州の上より志きりにうちたゝくにかゝ共かゝ
見失いぬ暫くして奴僕見回り草中に蛇死居たり
と告しかバ主出て杖にてかきのけんとしける時かの蛇を吹
かけゝるに其主の左の眼に入りし蛇ハその侭倒て

先よりて主の眼俄に疼て腫はげしく寒く熱出苦悩いかんともなし既に命もあやふく見えし程に主たゞこの事の蛇に毒有ることを思ひ出して烟草のやにを眼中に入れしに漸に疼消し其後漸く一時許に苦悩のき眼赤き許に成りしが明くる日を入置くるに五六日ほどに全く愈たりき其翼年も時節に又眼疼いだしたるに色々眼療の療治を施しけれども不愈蛇毒のことを思出し又烟草のやにを入置しに忽愈たり二ヶ年もその時節には必目疼みたれ共其後はやにを入置くにいえぬけ　支村上

何かし物語之

備後福山の人夜中に謡て蝦蟇をふみころせしに其蝦蟇はふる時に一方の足の内踝の辺にかまの息をかけて吹かけぬ其のあつき事熱湯をそゝくが如くせしがそれより其辺次第に腫て疼むこと限なく寒熱甚しく数十日なやみしがいろいろ治療を加へ漸愈たり其翼年其時節に至て其人ゆくりなくして頓死せり蝦蟇毒発せし成るべし

飛騨國小坂村谷川のほとりに井有り水黄赤
色にて味ひ五味調ひたる如し此水能病を治
す冷水故ながら飲しく浴すれば変也とぞ
人雷にうたれ身黒く形かはりたる者に降真香にて薫せ
れハ蘇生してそのくろきたちまちさりてのぞきけるといふ
泉州堺に半井宗典といふ人有今より三四代許前の
宗与名医の名高かりし或夜一老婆来り某ハ村の
者なりしが我子の病気にて候来り候へといふしかれば宗与
呼入てその子如何なる病ぞと問に彼婆々声をひそ
め我子盗賊のくせ有りて難儀仕候何とぞ君の御薬
を与へ賜はらば盗賊のくせ治し候様にと余義なく
頼まれハ宗与暫思案して心得たりとて薬を多
く調合して何くれと程にて其子形のなやみ
く病にもあらぬものに先生の薬をあたへ給ふハい
かと問ふに宗与答て我ハ医按附けれバ何ぞ
汝等も稽古の為に考へみよといへども是しかと皆思ひ
よるべくも何ふべきひそかに乞ければされバとよ承
ハ肺の臓をかたどりたる薬を与へたり其事ニて咳

嗽出く八盗賊の業八叶ふまじといはれしが頓

智の咎也

四百四病達生録曰四百四種病宿食為根本維摩

經巻二方便品第二に病最集百一病後秦肇法

師注云此若之義也又曰是身為災百一病惱注肇

曰一大増損則百一病生四大増損則四百四病同

時倶作故身為災聚也又巻五文殊師利問疾品

注什曰四百四病名有異相

小児暴瀉し頓死スル者多し俗下庸医ハヤテト云諸薬効ナク見へし

ニ醫宗必讀漿水散大ニ効アリ　天野信景塩尻

漿水散方　治暴瀉如水一身尽冷汗出脉弱気少不能言甚者吒吐此為暴病

半夏二両　良姜二匁五分　乾姜炮　肉桂五匁　甘艸五匁

附子炮五匁　右細末毎服四匁水二鍾煎一鍾服ト云

元禄十六五月初京油小路二条上町屏風屋七左衛門ノ

男子十二歳俄発顛シ日ヲ経テ心気立直リシニ腹中

声アリ家族大ニ驚ク人ノ言フ程ノ事ヲ咎フ彼子毎

ニ争フ薬餌祈禱ヲ尽シテ験ナシ一醫管玄際

一胗シテ方書及雑記ノ中ニ此疾有應声蟲是ナリ

Kitasato Memorial Medical Library

試ニ薬ヲアタヘントテ雷丸ノ入リシ湯薬三貼ヲ調シテ服セシメントスルニ腹声大小拒ミテ其薬用ユベカラズト云ヤガテ急ニ服セシム次ノ日ヲヘテ声絶シ一旦厠ニ登ル肛門ヨリ一蟲ヲ下ス形蜥蜴ノ如ク額ニ小角有走リテハタラク其親ヤカテ打殺シヌ病者六月ノ末ニ快ヨク全快セシトソ

奇疾サマ〳〵也　同上

筑前福岡辺ニハ小児瀉下病多クシ難救难症也亀井道哉名テ暴瀉病ト云他國ニ無キ病也

按ハヤテノ類乎岩国ニハ三四歳迄ノ小児腹痛多ク両三日ニハ大低皆死ト處ノモノ殊外此病ヲ恐ルト云殊难救难治ト云

薩摩ノ国ニ小児二三歳ヨリ四五歳ノ時故無シテ俄ニ啼叓有腹痛ノヨウニ見ユル也此病發スル時ハ一昼夜或二三日ニ啼尽シテ皆死ニ至也此症岩国辺ノト同症ナラン

肥後辺ニハ下賎ノ人ノ足ニ片足フトク腫テ柱ノ如ク九疾多シ此病詩経ニ云尰ト云病ナリ哉

肥後球磨ト云處ニ腹痛甚多シ生涯腹痛ヲ患フ

Kitasato Memorial Medical Library

地気ノ然ラシムル事ヤ他国ニ無事也越中冨山ニモ
腹疼病甚多シ然共其病因ナド異ナル様ニ思ハル
屋久島徳ノ嶋大嶋辺ニテハ出産ノ家必多ク漫リニ火ヲ焼
ク事也養生ノ第一ナリトス一七日ノ間數百束ノ薪
ヲ焚事也上逆ノ患モナシ産倚鎮帯ノ事モ昔ヨ
リナシトス

夢溪筆談云ク官者陰茎ナシ故ニ髭生セズ女子モ髭
ナシ是男子腎気外ニメクリテ髭ヲ生髭ト陰モトハ
腎気主ル処也トス陰茎ヲ切レハ髭不生哉

矢疵貫キ透リタル時ニハ矢ノ羽ヲ去リテ先ノ方エ静ニ抜ク
ベシ入タル方ヘハ抜ベカラズ又急卒ニ抜コトヲ忌ム静ニ抜テ
其跡ヲ急ニ指ニテ蓋スベシ其疵口ヨリ気漏レテ即死
スル也暫フタシテ後指ヲ去リテ縫フベシ

筑後ノ国ノ山中ニテ猟人ノ鉄炮ノソレ玉ニ当リ左ノ肩
先ノ処ヨリ入リ肩ノ下ノ処ニ至リ其玉皮肉ニ留レリ
三十日程過テ瘡腫ノ如ク破レテ肩ノ下肘ノ上ノ
處ヨリ出タリ骨ハ傷ラサリシヤ手臂ノハタラキ
ニ別儀ナシ數月過テ後鬢髪悉ク脱タリ眼中

Kitasato Memorial Medical Library

ノ色変リ癩病ノ如ナリ火毒ノ肉中ニ残リシ故ニ哉

浮田家従兵馬場十助鉄炮ニテ右ノ脇ヨリ臀エカケテ打通サレケレ共只進ミケル又背ワリ具足ノ右ノ肩カイヨリ骨ノ中ヲ臂ニデ打抜レ目クラミテ倒レ又郎等来リテ引取又其後十助全快ニテ語リケル當リタル時大木ニテ袋ヲ突通スガ如ク覚エ物ノ色皆牽牛花ノ色ノ如ニ見エタリ後隠道ニテ農トナリ七十七歳ニテ病死セリ

淫精子宮ニヤドル医書先天ト云慈恵大師ノ法華経玄賛ニ一七日内名羯(カ)剌(ラ)藍(ラン)ニ

佐渡國金山を堀事を業とする者ハ後必病を發して早きハ三年五年遅きハ七八年ニて死す方言ヤヘケと云咳嗽出て面色青く腫り気急の気味有黄胖病の如く息遠く歩行ならさるし此の病一人も癒たるものなし薩摩の金山ニてハヘツペと云咳嗽の声ヘツペと云ふか如し金銀銅錫を堀もの皆此病有り是盌花の油烟外

ニ散らざる人の呼吸ニ乃ち鼻より入て肺
臓の穴ニ至り油烟粘着する故ニ発する事千山気
の病人ニハ温補の薬を忌人参杯用る時ハ却て
早く死る也

程子外書云病臥ニ於床ニ委之庸医ニ比之不慈不
孝事親者亦不可不知医云云

世間俵と云雑吾ニ親の敵のごとき也よく薬箱へ切て
何るもの形なき世上ニ不学無術の庸医は甚だ
海じきなり

医門ニ二十三科或十四科ト立ル事道藏経已来古今
醫統翼医通考群書拾唾輟耕録聖剤總
録谷載之大同小異有リ大同類聚方ニ十三
科具ルト云

文献通考廿子自生日起至五千四十八日而天癸
至ト有

大和本草ニ云凡薬ハ皆其気偏ナリ偏気ヲ以能病ヲ攻去ル
病去ラハ不可服常時ハ只穀肉菜蔬ヲ以テ培養ス
ヘシ無病ノ人ハ不可服薬如参芪朮甘ハ百薬ノ上

Kitasato Memorial Medical Library

品ナレ共為性亦偏無病ノ人服之却テ能生病况攻
撃ノ藥乎
凡藥ヲ採用ルニハ先必須辨其眞偽察其良否考其
同異擇其去取又其所產ノ土地ノ宜不宜ヲ擇フベシ產
地不宜性不良譬バ諸食品土地ニヨリテ其味各美
悪アルガ如シ次ニ其採用ル時節ヲ擇フベシ採時アシケレ
ハ性全カラズ葉莖ヲ取モノハ夏月葉盛ナル時朝間トル
ベシ根ヲ採物ハ八月以後二月以前ニ宜シ若其根ノ在
處シレタル物ハ十二月正月精気ノ全ク在根伏藏シテノ
未發生時採ベシ是ヲ為上時十一月以前二月以後
ハ根ノ精気渾全ナラス凡葉ハ其盛美ナル時
実ハ其成熟ノ時根ハ其渾全ナル時ヲ宜トス根ヲ取
ニ春ハ早ニ宜シ秋ハ晩キニ宜シ其精気ノ淳濃ナル
時也根モ葉モ夏秋トル物ハ日ニ乾シ冬春トル物ハ
陰乾ニスヘシ閑寳本艸ニ馬志云草木根苗九月以
前採者悉宜日乾十月以後採者陰乾乃好次ニ
製法ヲ精クスベシ炮炙炒焙煆蒸蚕製酒製醋
製薑製土製鹽製童便製等分各其物ニ

隨テ宜キアリ其法ニ不可違又忌火忌銅忌鉄物アリ是古人品物ニ制伏ノ妙アル㕝ヲ知テ法ヲ立テ後人ニ示シタル也古人ノ意ヲ不知シテ妄ニ不可犯又大毒有毒ノ物製法不可踈略次用薬分量ノ多少軽重ヲ詳ニ計ルヘシ大人小児表裏虚実病在上與在下ニ隨テ多少ヲ定ムヘシ次ニ煎薬法ヲ詳ニスヘシ水ノ好否ヲ擇ヒ水ノ多少薬液ノ濃淡ヲ詳ニシ姜棗ヲ用ル分量ヲ考ヘシ不可有過不及且薪炭ヲ用ルニ木ト炭ニ良否アリ煎法ニ純補ノ薬ハ小服ニシ文火ヲ用テ熟煉シホツヽ服スルニ宜シ文火トハヤハラカナル火也發散疏通ノ劑ハ大服ニシ武火ヲ以テ急ニ煎シ不煉熟多服スヘシ武火ハツヨキ火也服薬者モ亦病ノ在上與在下飲食宿滞ノ有無トヲ考テ服スヘシ且一日服薬ノ多少ヲ詳ニシテ過不及ナカルヘシ苟不如此其薬方其病症ニヨク適當ストモ效驗アルヘカラズ

Kitasato Memorial Medical Library

醫事雜話卷之二終

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library